

令和5年度伊豆の国市立葦山中学校

学校教育目標 自ら学び 共に歩み 豊かに表現する生徒

重点目標 学びをつなぐ 仲間をつなぐ 行為をつなぐ

葦中だより

12月 華

令和5年12月15日発行

多様性や包摂性を高める

西暦2000年代に入って流行した歌の中に、『世界に一つだけの花』があります。一人一人が価値ある存在として尊重されるべき、がメッセージの一つでした。学校という場所にいると、かつての画一的な教育やいわゆるゆとり教育に対するアンチテーゼにも聞こえたものです。しかしながら、「みんな同じでなければならない」という強迫観念と決別する時代が来ていることを実感させる歌でもありました。今の生徒が生まれる前の話です。

そこから20年して令和時代に入り、文部科学省は「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、現行の学習指導要領を実施しています。そこでは、教育の多様性や包摂性を高め、教育の機会均等の実現が求められています。「多様性」「包摂性」という言葉は少しわかりにくいかもしれませんが。前者は英語で「ダイバーシティ」と言い、「生まれ持った特徴や価値観、考え方が違うさまざまな属性の人が集まっていること」を意味します。後者は「インクルーシブ」と言い、「障がいのある子どもと障がいのない子どもと一緒に学び生活する仕組み」を意味します。学校では、多様性が尊重され個が活かされる教育を通して、共生社会で活躍できる資質能力を育もうとしています。では、その真っ只中にある当の生徒は、何をどのように考えているのでしょうか。

11月18日(土)に開催された「伊豆の国市わたしの主張発表大会」に、本校から2年生の寺村さんが参加し、意見を発表しました。タイトルは『ジェンダーレスへの取組』。概要は次のようです。

新しく「自分で選べる」制服の導入をきっかけに、私は多様性についてこれまで以上に考えるようになりました。ジェンダーレスという言葉に限らず、一人一人の個性が尊重され、誰もが自分らしく生きられるようになれば、そしてそれが当たり前になればいいと思います。

そのために、まず、私は理解しようとする姿勢を大切にしていきたいと思います。性別によって差別するような言葉を口にしたり、固定化されたイメージと合わない人に対して偏見を持つたりしないよう、身近なことから心がけていきたいです。

私たち若者より、大人の方がイメージは強く植え付けられているかもしれません。だからこそ、自分のこの発言は、考え方は、固定観念に縛られた偏見に満ちたものではないか、誰かの生き方を傷つけてしまうものではないかと考えてほしいと思います。そして、自分の生き方を自分で選び取り、自分らしく生きられる多様性が尊重される社会を、一緒に作っていかたいと思います。

——こんなふうに皆が考えて行動できたら、世界から争いや衝突は消えるのに——

聴衆の誰もがそう感じたことでしょうか。傾聴に値するすてきな主張でした。

10月頃、「従業員の身だしなみ多様化、始まる。頭髮・ネイル等の基準を大幅に緩和しています。お客様のご理解ご協力をよろしくお願いたします」のポスターを店頭に掲げた、首都圏のスーパーの取組が話題になりました。業務に支障をきたさないことが前提条件であり、当然その責任が果たされてのことだと思いますが、スーパーでは大きな混乱やトラブルは起きていないようです。「自分の見方・考え方＝他人の見方・考え方」ではないことを自覚することが、多様性の尊重の一步なのかもしれません。

<文責：校長>

テスト採点システムを試験的に導入しています

2学期のテストから、一部の学年、教科で採点システムを試験的に活用しています。期末テストでは、多くの学年、教科で活用しました。

これまで、手作業での採点、得点集計を行っていましたが、どうしても採点や得点計算の間違いが起きていました。また、採点基準にずれが生じることもありました。採点システムを活用することで、1問ずつ全員の解答を並べて採点できるため採点間違いが減少し、配点を事前設定することで得点計算のミスがほとんどなくなりました。

テスト採点システムでは、記号（数字やカタカナなど）での解答を、かなり正確に自動採点することができます。これまでも、生徒には解答の文字を丁寧に濃くはっきりと書く指導をし、高校入試等では採点者が判別できない文字は不正解とされることを伝えていました。AI自動採点によって、筆記について客観的な判断をされることになります。

メリットばかりではなく、デメリット（事前設定や全解答用紙のスキャンの必要等）もあるので、教員で評価・検討し、今後の教育活動の改善に生かしていきます。



教員研修 ～先生も勉強します～

AIの発達や情報通信網のますますの発展により、大きく社会が変化しています。1つのことを覚えたり1つの作業をしたりすることは機械のほうが素早く、正確に行うことができます。これからの時代を生きる人間に必要なものは、必要な情報を選択し、他者と共に考え、新たなものを生み出したり実行したりする力といえます。

生徒にこのような力をつけるために、どのような授業を行えばいいのか、教員は1年を通じて研修をしています。2学期には、多くの講師に授業を参観していただき、指導を受けました。そして、生徒にとってよりよい授業にしていくために、毎日の授業を見直し、改善に努めています。



栄光を讃える～大会等の表彰～

全国小・中学校作文コンクール県審査	優秀賞	K R (3年)
〃	佳作	NA (2年)
女子テニス ヨネックスカップ東部大会団体	第3位	
剣道 飯塚杯争奪三島大会 男子団体	第3位	
〃	女子団体	第3位
羽賀杯争奪中学校優勝大会 女子団体	第3位	
サッカー 県U-14新人戦伊豆地区予選	準優勝	

< 3学期のスクールカウンセラー来校日 >

川田カウンセラーの3学期の来校日をお知らせします。相談のある方は、事前に予約をすることができるので、中学校にご連絡ください。

1月 … 16日(火)・23日(火)・30日(火)
2月 … 13日(火)・20日(火)・27日(火)
3月 … 5日(月)・12日(火)

【担当…小笠原・宇恵 TEL055-949-1061】